

2019年度

事業報告書

（2019年4月1日～2020年3月31日）

特定非営利活動法人 ウィッシュプロジェクト

1 事業の成果

（相談事業）

2019年度の相談事業は、相談者と共に考え行動し、夢を実現し孤立をしない、市民同士が支え合い、お互い様で暮らす地域づくりを活動スローガンに活動を展開した。

- ①. 対人関係のストレスを軽くするためのカウンセリングと講座を継続実施した。
- ②. 従来型の傾聴のカウンセリングに加え、グラフィックファシリテーションの技法を取り入れたビジュアルカウンセリング技法を持つカウンセラーと連携ができた。また、ファイナンシャルプランナーと障害児教育にかかわった講師との出会いで、新しいジャンルの企画が可能となった。
- ③. 渉外活動を通じて、生きづらさ当事者経験者、ひきこもり家族会、社会福協議会等の新たな個人、組織同士のつながりが出来、今後事業を共に実施していけるご縁を得ることが出来、活動依頼に繋がった。
- ④. 3月以降、コロナの影響で面談や密集した会場での講座を自粛することになり、今後オンライン体制でのカウンセリング、講座を検討する必要があると感じた。

（施設管理運営事業）

・新型コロナウイルスの影響により2020年3月3日より年度末まで休館。行政の依頼により9時～21時までの開館時間が9時～17時までに変更になり、時間内は受付者を置き、電話や利用者対応、清掃を行った。

・ゆうゆう井草館

井草館再受託により3館運営(井草館、浜田山館、下井草館)を開始、2館責任者1名・1館責任者1名で行った。再受託になり利用者からは同じ受託団体が引き続き運営になり安堵の声を聞き、信頼関係ができていると実感した。・地域との連携によるふれあい食堂・併設館との協力事業である将棋交流・いきいきクラブとの協力事業であるカラオケサロンや前期受託時からの事業を引き続き実施のほか単発事業実施。ふれあい食堂は、子どもと交流する若いボランティアが2名参加するようになった。

・ゆうゆう浜田山館

「参加しやすい企画」（講座系、趣味系、集い系）のバランスのよい配置を目指すをコンセプトに、2019年度は「地域に根付いたゆうゆう館を目指す」をテーマにして取り組んできた。2018年度から引き続き地域のボランティアの方々が屋上庭園のメンテナンスに協力してくれた。

法人の特色を生かした事業として「生活に役立つ傾聴講座 全6回」を実施したが、新型コロナウイルスの関係で2回のみで開催となった。また次年度の為に1月から協働事業を2つ企画・計画していたが、こちらも新型コロナウイルスの関係で打合せ等ができず、保留になっている。

・ゆうゆう下井草館

受託2年目。責任者が変更になり、スタッフ、利用者とのコミュニケーションに力を入れた。

利用者の目線に沿った協働事業作成物展示のほか、登録団体作成物など通常館内での掲示を順番に実施することになり、利用者からも喜ばれている。

不定期ではあるが、自治会協力で地域へ館だよりを回覧することができることになった。

敬老イベントでは、地域の中学校の協力により吹奏楽演奏が新規に取り入れた。

区役所から協働事業に法人の特色が出ていないと言われているため、次年度は相談事業との連携による法人の特色を生かした事業を行う。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 28,913 】

(千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
相談事業	①不登校引きこもりなど人間関係や、依存症、不安症など心の問題を抱えている人への相談と支援事業。 ②社会復帰のためのさまざまな援助を必要とする人への社会生活技能訓練と就労支援 ③自助グループ活動支援	随時	法人事務所及び都内公共施設	3	東京都近隣住民および悩みのある者 不特定多数向け	518	1,140
施設管理運営事業	高齢者を中心とした一般市民向け公共健康福祉施設の管理運営 ゆうゆう井草館	随時	杉並区立健康福祉施設	9	杉並区民および近隣住民	15271	8,616
施設管理運営事業	高齢者を中心とした一般市民向け公共健康福祉施設の管理運営 ゆうゆう浜田山館	随時	杉並区立健康福祉施設	10	杉並区民および近隣住民	8241	8,959
施設管理運営事業	高齢者を中心とした一般市民向け公共健康福祉施設の管理運営 ゆうゆう下井草館	随時	杉並区立健康福祉施設	8	杉並区民および近隣住民	13698	8,522

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
なし					